この地域であなたと ひばりクリニック通信 一緒に生きていきたい

Hibari Clinic

テレマカシー

vol.22
2009.10.20発行

テレマカシーとは？ Terima kasih＝インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

恵みの秋

食べ物のおいしい季節となりました
皆さま、いかがお過ごしでしょうか
天の恵みに感謝しながら
秋を楽しみたいものです

ひばりクリニック・うりずん
髙橋 昭彦

恩師との再会

夏休みに、恩師のN先生（女性）に会った。30年ぶりくらいの再会だろうか。突然訪れた私を見て、先生は飛び上がらんばかりに驚かれた。

N先生は、国語の先生であり担任でもあった。郷里の恩師でただ一人、季節の便りが続いていたのがN先生だった。施設へ入所されたことを知っていたが、なかなか伺うことができなかった。

昼下がり、びわ湖が一望に見える談話室で、2人で向き合って座った。先生はお元気で、聡明な話し方は昔のままだった。この施設には、いろいろ考えて自分で決めて入ったそうだ。廊下の左右にずらりと個室が並ぶ。普段は自室で過ごすが、食事は食堂でとる。介護が必要になったときは介護保険を使うこともでき、診療所が併設されているタイプの有料老人ホームである。

夏休みで滋賀に帰っていた私は、かつて赴任した村に遊びに行ったこと、花火や盆踊りを楽しんだことなどを話した。先生は、当院での取り組みに対して「よくやっている」と励ましの言葉を下さった。

琵琶湖畔にたつ万葉歌人の碑

先生は健脚で、近所を散歩することがある。やがて、湖畔に建つ万葉歌人の石碑の話になった。私はその碑の前を何度も行き来していたのに、一度も気がつかなかった。

磯の崎 漕ぎたみゆけば 近江の海
八十の港に 鶴さはに鳴く

高市連 黒人

※ たみ＝廻み（めぐること） たづ＝鶴 さは＝さわ（沢）

その昔、びわ湖には多くの入り江や港があった。万葉歌人である黒人が、びわ湖を船で旅をした様子を歌ったようだ。先生は、この歌をそらんじて、石碑のありかを教えてくださった。久々に国語の授業を受けることができた。

＊

あっという間に時間は過ぎた。夏の西日が射していた。もう少し話をしていたい気もしたが、再会に感謝して施設を後にした。

その後、私は湖岸を歩いた。万葉歌人の石碑がびわ湖を背にして静かに建っていた。歌も先生のいわれたとおりだった。

学校の先生は、時に生徒の心の中に長く生きる。わずか1年、2年の付き合いの中で、生徒に影響を与え、ずっとその心の中に生きるのだ。教師というものは、素晴らしい仕事だと思う。そんなことを先生に伝えたら、とても喜んでくださった。

目の前のことに追われていて、なかなか再会を思いつかなかった。思い切ってお会いしてよかったと思う。N先生と、「長い間会っていない人に会うこと」を教えてくださった方に感謝したい。

岩場に立つ青サギ

湖岸を歩く白サギ

報告 シンポジウム

医療的ケアが必要な子どもの地域生活を支援する！

～ 在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク　群馬会議より ～

2009年9月に前橋市で開催された全国の集いで、小児についてのシンポジウムが開かれた。会場には全国各地から、小児の在宅ケアに関心のある病院関係者、在宅関係者、教育関係者、研究者などが集り、関心の高さが伺えた。

医療的ケアが必要な子どもの暮らし

地域には、経管栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的なケアが必要な子どもたちがいる。また、先天性心疾患や、悪性疾患を抱えるなど生活面で医療的な配慮が欠かせない子どもたちもいる。このような子どもの地域生活には、さまざまな苦労がある。保育や託児などの利用は難しい。また就学にあたっても、親が付き添いを求められたり、限られたいのちの子どもに対する配慮が足りないこともある。

これらの子どもと親の支援に取り組む2人が登壇した。

「育てにくさ」「生活しにくさ」を何とかしたい そんな想いに寄り添う看護

愛媛県松山市にある訪問看護ステーションほのか（梶原厚子所長）は、看護師19名（常勤14名）、理学療法士、作業療法士も有する大規模な事業所である。開所して10年目を迎えるが、小児の訪問看護では全国屈指の実績を持つ。小児領域の利用者は74名で全体の利用者の60%にあたる（2009年8月実績）。

利用者には、心疾患などの内臓疾患の子ども、難治性てんかんをもつ子どもも多い。経管栄養、気管切開、人工呼吸器、中心静脈栄養などさまざまな医療的ケアも必要である。

このような子ども達にはさまざまな「生きにくさ」や「育てにくさ」がある。梶原さんが考える、子どもの地域生活支援のポイントを下表に示す。さらりと書いてあるが、実行には相当な努力と忍耐を要する。

子どもの地域生活支援のポイント

1. 子どもは自分で家族や環境を選ぶことはできないので、家族の自立と幸せを支援する
2. どこに入院しても必ず家族の待つ地域へ帰ってくるので、地域は無条件で受け入れる
3. 子どもは誕生してから継続した支援を受けることで育っていくので、不安を感じたそのときから支援する
4. 「いのち」の時間が限られている子どもの支援には、笑顔になれる支援をする

ほのかでは、利用者が希望すれば、通院や就学に伴う支援、高校卒業後に通うところへの支援など、お金にならない支援にも関わる。梶原さん曰く「通院介助は滅多にないチャンス。ここを支えると信頼を得られるし、主治医とも連携がとれる。お金を払ってでも受けるべきだ」という。また、「留守番看護」という、看護師が滞在するサービスも行う。

医療的なケアや配慮が必要な子どもは、さまざまな場面で排除されがちである。民間の立場である梶原さんは、相手を決して非難せず、気持ちよく受け入れてもらえるように動いている。地域で信頼を得てきたほのかは、今では小児科のある大病院から、退院前に相談を受けるようになっている。

右から梶原さん、うりずん三上看護師、左は、ほのかのおひさま責任者の窪田さん

また、2009年6月からは、「ほのかのおひさま」という障がい児の児童デイサービスをはじめた。ほのかでは、「その子をどうするか」という視点で支援を続けている。

知らないとは言わせない！「電話一本で人が集まる支援チーム」づくり

長野県の北信圏域障害者総合相談支援センター所長の福岡寿さんは、「一晩でいいから熟睡したい」という吸引の必要な障がい児の母親の相談を受けたことがある。

当時、サービスの開拓や調整のほとんどは、母親が苦労しながら行っていた。しかし、自分は医療関係者ではないし、泊まり込んで預かることもできないと考えた福岡さんは、関係機関によるチームアプローチを試みた。

電話一本で人を呼ぶ福岡寿さん

母親に承諾を得た上で、電話一本で人を集め、特別支援学校を会場に、支援会議を開いた。このエリアで使える短期入所は？ ……「ないです」。あ、ないんですね、みんな聞きましたね、ということで、このエリアでは短期入所がないということが共有できる。では、どこを使うのか、ということを考えていく。

このチームアプローチの考え方を、福岡さんはこう例える。

朝の忙しいときに、車が1台エンストしていた。きっとほとんどの人は、その車を見て見ぬふりをして通り過ぎようとする。

そこで福岡さんが車を止めるが、福岡さん1人では車を押せない。福岡さんは、その場に立って他の車を止める。どうやって止めるのかというと、車を運転する人と目が合うと、その車も止まる。「あなたも見たわね」である。知らないふりができなくしていく。

福岡さんのやり方は、自分が動くのではない。みんなに電話一本で集ってもらい、どのような協力体制で子どもを支えて行くのかを皆で考えていく。当然、既存の資源では対応できない状況がたくさん見えてくる。そんなとき、仕方ないでは終わらせず、「あなたも見たわね」式に不足する資源やネットワークに気づいてもらい、どうするのか協議を重ねていく。すると、皆少しずつ譲歩したり、自分もここまでならできるという意見がでてくる。その積み上げがサービスをつくっていくことになるのである。

おわりに

その後、意見交換が活発に行われた。学校の先生からは、医療的ケアの子を受けるにはどうすればいいのでしょうか、という切実な声も寄せられた。それぞれの地域で、いろんなやり方で、この問題に取り組む人が増えてきているのは嬉しい限りである。

＊今回の子どもの在宅ケアについての報告がホームページ（ブログ）に掲載されています（http://hibari-dr.sblo.jp/）

うりずん日記

うりずん　サービス管理責任者
看護師　三上綾子

URIZUN

今年の７月、８月は、学校が夏休みのため、うりずんは連日大賑わい。利用者がいない日は、ほとんどありませんでした。そして、今、うりずんは２度目の秋を迎えています。

夏休みが終わり、学校の再スタート、インフルエンザの流行などで、平日には閑古鳥がなくのかな？と思っていたのですが、今年は少し違うようです。平日にもかかわらず、うりずんの部屋では、利用者の楽しそうな活動の様子が見られるのです。予想を上回る利用状況を、大変嬉しく思います。

最近では、土曜日は毎回、利用希望が定員３名を超す競争率となります。同日の定員３名を超す利用希望者が重なった時、うりずんでは、利用を希望する理由やご本人・ご家族の状況、他のサービス利用状況などを考慮しながら、利用予定日を調整させていただきます。具体的には、利用者に空いている他の日程の利用が可能かどうかの連絡、相談機関を通じて他のサービス事業所の受け入れが可能かどうかなど、外部との調整を試みます。

ところが、土曜日に医療的ケアが必要な利用者の受け入れをしてくださる事業所は少なく、最近では予約以外の土曜日の利用は、やむを得ずお断りをすることもあります。

あらら！おなじポーズ

完成！
カメとにらめっこ

ママ★お仕事
お疲れさまです!

お姉さん気分♪かわいね

●2009年7月～9月のご利用状況

区 分	7月	8月	9月	合 計
A	15	14	11	40
B	26	21	11	58
計	41	35	22	98

＊ 区分A …… 人工呼吸器装着の方
＊ 区分B …… 人工呼吸器を必要としない方
＊ いずれも延べご利用人数です

●2009年7月～9月のご来所状況

	7月	8月	9月	合 計
見　学　者	12	6	4	22
ボランティア	6	4	0	10
計	18	10	4	32

＊ ボランティアは延べ人数です

●現在の登録状況

区分A（人工呼吸器装着の方）	3 名
区分B（人工呼吸器を必要としない方）	7 名
合計人数	10 名
契約準備中の方　区分A	0 名
契約準備中の方　区分B	3 名
契約準備中の方の合計人数	3 名

＊ 登録ご利用者の年齢……2歳～14歳

●2009年7月～9月の寄付関係

ご 寄 付	2 件
ご贈答品	0 件

すべての利用者をお断りすることなく、うりずんで受け入れをしたいと思いますが、安全面やマンパワー、本人達が満足いく活動の提供などを考慮したとき、現在の定員3名が許容限度だと感じています。

そこで、利用者の皆様には、いざという時のために、今からいろいろなサービスを上手に、しかも、定期的に利用することをお勧めしています。もちろん、好きな時や好きな場所で、利用したい時に必ず利用できるというサービスの保障があれば、安心して在宅生活をおくることができますよね。

ちなみに、宇都宮市の基準によると、うりずんの看護師１名、介護福祉士１名の職員配置では、利用者の定員は６名まで可能となっているようです。

う～ん・・・現実とのギャップに思わず、うなだれてしまいますが、うりずんも出来る範囲で、更なる努力をしたいと思います。

室内運動会★大玉送り

初の４人お預かり

ねっとわ～く

開業医の強い味方！
話題の電子カルテ「ダイナミクス」
～ダイナミクス東京例会にて～

９月に東京国際フォーラムでダイナミクス東京例会が開かれた。

ダイナミクスとは、日本で有数の電子カルテソフトで、当院も開業時から使用している。今回は、当院の取り組みについて話をさせていただいた。

ダイナミクスの生みの親 吉原先生と

電子カルテは、数多くの会社が作成しているが、導入費用が安く、使う医師の意見がすぐに反映され、使いやすいソフトというのは滅多にない。「ダイナミクス」の開発者の吉原正彦さんは工学部を卒業したあと、医学部に入りなおした内科医である。開業医になった吉原さんは、使いやすい電子カルテがないことに気づき、自ら作ろうと思い立つ。現在、全国に2600人以上のユーザーを有するダイナミクスは、開業医にとっては話題の電子カルテなのだ。

吉原さんにご挨拶した際、意外な話を聞いた。「自分が本当にやりたいことは、コレではなかった。外来や往診、そんなことが本当はしたかった。でも、医師で工学部の知識を持っている人はそうはいない。だからダイナミクスをやっているのだ」と。

やりたいことより、自分がやらねばという使命感を優先することは、誰にでもできるものではない。そんな吉原さんを、多くの医師が慕っている。吉原さんとダイナミクスに感謝！

テレマカシー21号へ寄せられた感想から

うりずん１周年「夢がかないました」について

●うりずん１周年やりましたね。ゆめかなえ隊の皆さんの素敵な笑顔になぜか涙が止まりませんでした。皆さんの情熱と愛を大切に受け止めていきたいと思います。（神奈川県　石野 厚さん）

八重山探訪「骨を洗う」について

●私のお骨が洗われている場面を思うとくすぐったい気持ちになります。（宇都宮市　仲谷富貴子さん）

※洗骨については、衝撃的だったようです。皮を剥ぐというのはすさまじい、近寄りがたい、私の心が洗われた思いです、太陽の降り注ぐ沖縄でこそ成り立つような気がします、など多くの方々からも感想が寄せられました。

♥うりずんにご寄付を下さった皆さん、テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(_ _)>

ふわとろの親子丼

ふわふわの「親子丼」

滋賀県はびわ湖の西岸、湖西(こせい)地方の高島市(旧安曇川町)に吾兵衛(ごへい)という料理屋さんがあります。22年前にその地域のへき地中核病院に赴任したときから通っているお店です。

ほかにもおいしいものはあるのですが、年に１度、夏休みに帰省した折、迷わず注文するのが、特製の親子丼です。出し汁に鳥肉と卵が入ったシンプルなものですが、ふわふわとろとろの卵がなんとも旨いのです。出し汁と卵のおいしさが口いっぱいに広がります。作り方のコツは、卵を入れたらひたすら混ぜ続けるのだそうです(やってもなかなか難しい)。遠方ですが、機会があればどうぞ。

「ひばりクリニック」のご案内

●診療時間●

時　間	日	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	(休診)	○	○	(休診)	○	訪問診療	○
午　後（在宅医療）		訪問	訪問		訪問		訪問

●ひばりクリニックの運営理念●

1）在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
2）子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
3）障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること

Hibari Clinic
〒321-2118　栃木県宇都宮市新里町丙357-14
TEL 028-665-8890　FAX 028-665-8899
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp
U R L http://hibari-clinic.com/
URIZUN

栃木県宇都宮市の北西部、新里町（にっさとまち）にある、ログハウス風の小さな診療所です。

●JR宇都宮駅から「ろまんちっく村行」バス約35分

●お車で 東北自動車道 宇都宮ICより5分 宇都宮ろまんちっく村 入口向かい側

●この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。